

未利用資源の混合が堆肥の発酵温度および成分等に与える影響

畜産試験場

佐竹康明、村上恭彦

県内で産出される未利用資源および産業廃棄物等を有効利用するため、家畜ふん尿の堆肥化における副資材として未利用資源等を混合し、堆肥の発酵温度および成分等を検討した。調査は、乳牛糞を基礎におが屑、未利用資源、おが屑と未利用資源を混合した3水準を試験区とし、小型堆肥化実験装置に14日間堆積した。その結果、おが屑と、竹^ハレット、^アメ粕および^ハン屑をそれぞれ混合した区における発酵温度は、堆積開始後1～2日で60以上に達し、2～6日間継続した。^ホンタ^ラを混合した区を除く、各試験区の電気伝導度(EC)は、堆肥評価基準の上限値とされる5 ms/cmより低かった。また、^コマツ^ナの発芽率および根の伸長率は、竹^ハレット、竹^酢および竹^炭をそれぞれ添加または混合した区が何れも80%以上であり、作物の生育に影響を与えないことが認められた。以上のことから、堆肥化における副資材として未利用資源の有効性が示唆された。

畜種：牛、分類：その他